

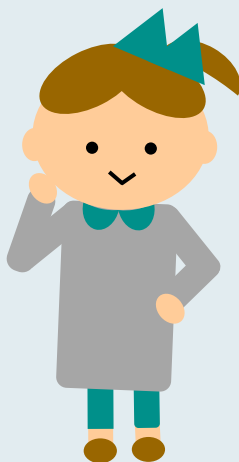
芸術の秋、読書の秋・・・

吉田南総合図書館はあなたのミカタ!

表:文献収集・管理の
ススメカタ
裏:先輩インタビュー



2018
10



しょうようかん

京都大学 吉田南総合図書館 (愛称:逍遙館)

〒606-8501

京都市左京区吉田二本松町

Tel : 075 (753) 6524, 6525

Fax : 075 (753) 6896

Email : eturan61@mail.adm.kyoto-u.ac.jp

HP : <http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/yoshidasouthlib/>

Blog : <http://yoshidasouthlib.hatenablog.jp/>

Twitter : [@yoshidasouthlib](https://twitter.com/yoshidasouthlib)

HP



Twitter



L
i
b
r
a
r
y

N
e
w
s
l
e
t
t
e
r

【ガイダンス】後期は「文献収集・管理のスメカタ」を開催！

後期の吉田南総合図書館は「文献収集・管理のスメカタ」を大きなテーマに、講習会や企画を順次開催していきます！

問合せ・申込先 → eturan61@mail.adm.kyoto-u.ac.jp

くわしくは↓



【第1弾】「15分で知っとく 卒論・修論のための資料の整理法」

前期講習会のアンケートで「もっと知りたいサービス」として要望が高かった文献管理について、右記日程でご紹介します。気にはなるけど自己流でなんとなく済ませている…なんて方は必見です！

3・4回生以上の学生のみなさんにおすすめですが、どなたでもご参加いただけますよ。お待ちしております。

【日時】全3回

10月15日(月)、17日(水)、19日(金)

※各回とも16:30から

【申込】

予約優先制(当日参加も可)

メールの件名を「文献整理講習会」とし、氏名・回生・学籍番号・希望日時を明記して上記アドレスまで申し込んでください。

【第2弾】「15分で知っとく 卒論・修論のための文献収集最終チェック」

必要な文献を速く確実に入手できるよう、学内所蔵資料、電子ジャーナル(EJ)、オープンアクセス(OA)資料などの探し方や利用方法についてご紹介します。さらに、学内に所蔵のない資料の取り寄せ(ILL)を、オンラインでスムーズに申し込みできるように解説します。

全回生におすすめの講習会です。ぜひお気軽にご参加ください！

【日時】全5回

10月22日(月)、24日(水)、26日(金)、

30日(火)、11月1日(木)

※各回とも16:30から

【申込】

予約優先制(当日参加も可)

メールの件名を「文献収集講習会」とし、氏名・回生・学籍番号・希望日時を明記して上記アドレスまで申し込んでください。

【第3弾】「文献収集応援！リクエストキャンペーン」

期間限定で「**全学部・全研究科の学生**」からリクエストを受け付けます！文献収集の一手段であるリクエスト制度で、京大にない資料を申し込んでみませんか？

また、人環院生で『人生を狂わす名著50』の著者、三宅香帆さんとの特別企画も決定！詳細は館内ポスターをご覧ください。

【日時】

申込期間:10月30日(火)～11月9日(金)

選定期間:11月12日(月)～11月16日(金)

掲示期間:11月19日(月)～11月30日(金)

【申込】

申込用紙に必要事項を記入の上、受付箱に投函するかスタッフへお渡しください。



Follow me ! @yoshidasouthlib



【おしらせ】夏季特別貸出の返却日をお忘れなく！

夏季特別貸出返却期限日

2018年10月10日(水)

特別貸出期間中に貸出された図書は延長ができません。必ず期限内にご返却ください。

延滞されると、遅れた日数分、貸出できない期間が付きまますのでご注意ください。

10月は期間限定でスイーツ型のしおりが登場！自動貸出機にて配布中、無くなり次第終了です。ぜひチェックしてみてくださいね♪



【コラム】こんにちは、図書館の中の人です。

こんにちは、ご無沙汰しております。図書館の中の人(ILL [Inter Library Loan] 担当)です。

みなさん、夏休みをいかが過ごされましたか？かき氷を食べましたか？スイカ割りもしましたか？

猛烈な暑さの夏が終わり、やっと過ごしやすい気候になってきました。夏の間は学生さんの来館も少なかった吉田南総合図書館ですが、賑わいが戻りつつあります(図書館に学生さんがいないとやっぱり淋しいです)。

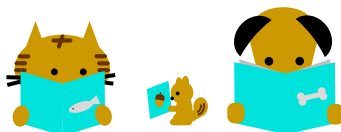
さて前期企画の「論文・レポート執筆のススメカタ」に続き、後期企画は「文献収集・管理のススメカタ」を企画しました！今月は文献管理と文献収集についての講習会が立て続けに2本！論文・レポート提出前にしっかりおさらいして、直前に慌てなくてもいいように準備しましょう！みなさん、吉田南総合図書館1階調査・相談(？)

(\い)カウンター前に、いつも通りの「16:30」集合ですからね！

また10月末から11月にかけてはリクエストキャンペーンが始まります。これからの広報にご注目ください！

ところで、誰も聞いちゃいませんが、高1娘にとつての初めての文化祭が9月初旬に開催されました。吹奏楽部でクラリネットを担当する娘の、全校生徒に見守られる中での文化祭のラストを飾る演奏、また高校生のはちきれんばかりの表現力をたくさん見て、胸がいっぱいになった2日間でした。

というわけで、秋と言えば、芸術の秋や食欲の秋、読書の秋・・・いろんな秋を楽しみましょう。それではまた来月。



先輩にお話を聞きました【後編】

お話を聞いた先輩…Hさん

人間・環境学研究科修士二回生
(平成三十年三月時点)

■修論のテーマを教えてください。

「幼児初期の言語発達における『胚性詞』の研究」です。

初期のことばの「意味」について研究しました。特に、大人にとって「靴」などの具体名詞の意味は「モノ」ですが、一〜二歳児にとってもそうとは限らないのでは…?ということをお調べしました。

■論文提出直前はどのような様子でしたか?

一週間の半分は社会人として仕事をしていたので、提出締切の直前は相当焦っていました。やらなければならぬと頭ではわかっていても、文献を整理する時間を十分に取れず、そのために論文執筆の準備が遅れました。また、データの解析では、僕の研究分野でよく使われる手法とは少し違う方法を採用したので、文章や表作成も試行錯誤しながら年末年始に書いていました。

メインとなるデータを採ったのは修士二回の夏だったのですが、本格的な解析を始めたのは冬に入ってからでしたね。自分が主張したい内容や、データに合致する理論を唱えている先行文献がないかをぎりぎりまで探していました。最終的に五十年くらい前に出版された本の中でようやく探していたキーワードを見つけることができました。見つけたと

きは、とても励まされましたね。自分の研究は「独りよがりの研究」ではなかったんだとようやく確信をもつことができました。

■どうやってその本を見つけたのですか?

…運ですね。本を読むのは苦手で、知識が豊富な人間とは程遠い院生でしたから(笑)。僕の場合は、「いざ読まなきゃ」と思いながら手をつけられずにいた本を片っ端から探していたら、自分の研究キーワード(コンセプト)と合致する表現がたまたまあって、そこから道が拓けました。そこで引用されていた文献を探そう、ということになったんです。京大はありがたいことに図書館がたくさんあるので、学内の図書館でその本を見つかることができました。見つかったときは「これや! やつとみつけた!」となりました(笑)。

先ほど、見つけられたのは運だと言いましたけど、これ、と決めた分野の文献だけ読んでいたら十分、ということはないので、周辺の分野の資料もさっと見ていたことがよかったのかもしれない。

■論文を書きあげるために、何冊の資料を見て、何冊の資料を精読しましたか?

何冊、というのは決めていませんでしたし、覚えてもいません(笑)。そのような制限は特に決めていなかったと思います。強いて言うなら、期限を決めていました。「この日までは文献を読むことに力を注ぐ」という感じで。文献を読み始めると、途方もなくどんどん芋づる式に見つかって収集がつかなくなってしまうから、「ここまででは読む、ここ

からは書く」というように力点を移すことが僕の場合は重要だったように思います。とはいえ、論文を書き始めると、背景の説明で穴が見つかったり、自分の主張の裏付けに不足部分が見つかったりするもので、そしたらまた文献を探して読むで…という感じで進めていました。

■書き終わった当初の感想は?

ほっとしました。ぎりぎりだったので、大丈夫かなと思っていましたが、通ってよかったです(笑)。

月並みな言い方ですけど、今までやってきた研究の一つのものに(曲がりなりにも)まとめた体験は、自分にとっても大きい出来事でした。頭の中の「考え」って、形にならないものがたくさんあると思うんですけど、こうやってきちんと形にして他者と共有できるようにすることで、次の研究の端緒になるコメントをもらえたり、この研究をきっかけに新しく関わる人ができたりして、本当によかったと思います。

もちろん、自分ひとりで研究ができたわけではないです。特に、「総人のミカタ」という活動のなかで知り合った院生の友人には本当に助けてもらいました。自分の論文を読んで校正してくれたり、自分では気づけない文の癖(接統詞の数が少ないのでは? など)を教えてもらったり。このような過程のお蔭で自分の文章を相対化することができましたし、次に文章を書くときにチェックすべきポイントやコツがつかめたような気がします。

反省点もたくさんあります。特に、準備が遅くなってしまったことは大いに反省すべきでしょう。

論文は、書けるところから書き出す人が多いと思います。実験系の研究者だと、方法や結果から先に書いて、緒言や考察は後から辻褄を合わせる、というスタイルをとっている人も多いのではないかと思います。僕の場合、卒論はそんな感じで書いていました。でも、修論では、書けるところから書くことはできたはずなのに、なかなか筆がのらなくて……。仕事の忙しさにかまけずに、ちゃんと時間管理をしておくほうがよかったのかなと思います。修士二回の冬でもまだ解析にかなりの時間を割いていたので、執筆にかけた時間は本当に短期間になってしまいました。

それはそれとして、論文執筆がどんなものかは、やはり一度やってみないとわからないとも言えるかもしれません。進学を希望する人にとっては、卒論執筆がその後の論文執筆のいい練習になるのではと思います。

■イメージ通りの修論が書けましたか?

最終的には書けました。思い通りになってほっとしています。修論を書くにあたって、目標にしていたことがいくつありました。「定量的にデータを示す」、「量的なデータにのりにくい観察事項の質的な分析も加える」、それから、自分の研究の着想は(仕事の)現場からもらったので、「現場(保育士さんや保護者の方など、子どもに関わるさまざまな人たち)にも還元できるものになりたい」という思いがあったんです。十分とは言えないかもしれませんが、一応はそれらを全て盛り込むことができたので、その点では納得のいくものができたと思います。



■書いていて一番苦労したことは？

自分の思っていること、頭の中の思考を文章にすることが特に大変でした。書き慣れていないかどうかということではなくて、しっくりこない表現などがあって……筆が遅いんです、僕(笑)。「よっしゃ、書くぞ！」と気合を入れてパソコンに向かって、最初の一文字を書き始めるまでにすごく時間がかかりました。何も書けないことでさらに焦ってしまつて。正直ともしんどかったです。(気分が)のるまでに二時間かかったこともあります。ゲームなどの習慣はほとんどないので、執筆の邪魔になるものは特にないんですけど、思考がまとまらない、気がのらないとかそういう感じで。気がのらないとか、そんなこと言っていられる段階じゃなかったんですけど、とにかくモチベーションの管理が難しかったですね。

■図書館は利用されましたか？

文献を探しに教育学研究科や基礎物理学研究所の図書室など、あちこち行きました。京大には大抵の資料がそろっているんで、ありがたいですね。図書館で自分の探している本が見つかったら、僕は大体その周辺の書棚はざっと見ています。トピックごとに並んでいるので、面白い本が見つかることは多々あります。

執筆については、気分転換でたまに図書館でやることもありましたが、大抵は院生室でやっていました。

■自分のやりたいことの糸口はどうやって見つかると思いますか？

コツがわかれば僕も苦労しなかったで

すね(笑)。僕の場合は、学問上の背骨を何にするか迷ってしまったので、総人からいわばドロップアウトして、転学部したんです。結果的に、学問上の背骨はよそで調達して、そうしたらようやく総人・人環の歩き方が少しわかってきて、「出戻りしよう」ということになりました。ですから、総人から一度逃げ出した僕に言えることなんてないに等しいんですが、代わりに、僕の今の指導教員(阪上雅昭教授)が仰っていたことが自分のなかでストンと落ちたので、そのことを話しておきます。それは、「面白そう」と思う分野があったら、三ヶ月でも半年でもいいから、期間を決めて、一度その世界に浸かってみる、ということなんです。これは違うかも、と思ったとしても、とりあえずその場所である程度の期間やってみる。やっているうちに見えてくるものがあるのではないでしょう。

■自分の人生を方向付けたような、影響された本はありますか？

「私の原点」みたいな本を挙げることでできるほど僕は本を読んでいないし、「この本にとっても影響された！」というようなものも特にないんですよね……困ったな。僕の場合は、本というよりは、これまでお世話になった人たちから受け取ったいくつかの言葉が、今の人生の方向付けになっているように思います。でも、ここで言うのは恥ずかしいので内緒です。具体的な書名を挙げられずごめんなさい。

■後輩に向けてのアドバイスをお願いします。

ひとりで悩まないこと。修論の構想の

段階で誰かに話すと、何か困ったことがあったときに、話す相手の選択肢を多く持つておく、つまり依存先を分散させておく、ということもいいですね。そうしておく、結果的にいいことがたくさんあります。それから、自分と違う分野の人と話すような習慣をつけておくと、研究を進めていくなかで困難な壁にぶち当たったときに、ちょっと俯瞰的な視点から自分を見ることができる場合があるように思います。

あとは、修論研究の進め方やスタイルは人それぞれあると思うので、自分に適したスタイルを理解しておくことも重要です。例えば、最初から文章に書き出して、それを指導教員に見せて相談するスタイルの人は、先生とのメールのやり取りだけで論文執筆がうまく進んでいくと思います。でも僕みたいに、文章より先に口頭で話して、そうして頭の中でまとめてから、やっと文章にできるという人もいます。そういう場合は頻繁にゼミやミーティングをしてもらわないといけないですね。あるいは、箇条書きや文献のコピーから始める人もいるだろうし。

自分がどういうスタイルで取り組めば、最終的に論文に繋げていけるかを見極めて、その上で、そのスタイルを進めていけるような研究環境にあるかどうかを、指導教員や先輩、同輩、ときには後輩に相談しながらやっていくといいのではないのでしょうか。なるべく早い段階で自分のスタイルを見極めたほうが、自分と先生のお互いにとっていいと思います。先生には先生独自の指導のスタイルもありますし、互いに「合わないなあ」

と思いつながら指導したり、指導を受けたりすることはなるべく避けたいですね。

■自分にとって研究とは何でしたか？

ずばっとは出てこないですね(笑)。すごく素朴な言い方をすると、わくわくさせてくれるもの、ですかね。研究すること、新しい知見が得られて、わくわくさせてもらっているなど。わくわくしていないと研究は続けられない。

あと、研究が唯一ではないですけど、「これが大事だ」と思ったことを他の人と分かち合う時の一つの方法だ、と言えるかもしれません。

■これからの夢はなんですか？

できれば大学のコミュニティーで生き残っていきたいですが、現場も捨てがたいです。そういう意味では、まだ悩んでいます。「カッコいい夢」なんてもいありません。それよりも、自分のペースではありますが、その日その日を大切に生きていきたいです。

■Hさん、ありがとうございました。

前編(2018年4号)は当館のwebサイトで見ることができます。そちらもぜひ♪URLは↓

<http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/yoshidasouthlib/news/librarynewsletter/04.pdf>



本館開館日程表

10月

- 夏季特別貸出の返却日

10日(水)

- 15分で知っとく 卒論・修論のための資料の整理法

15日(月)、17日(水)、19日(金)

- 15分で知っとく 卒論・修論のための文献収集最終チェック

22日(月)、24日(水)、26日(金)、
30日(火)、11月1日(木)

11月

- 文献収集応援！リクエストキャンペーン

10月30日(火)～11月30日(金)

- 京都大学11月祭

22日(木)～25日(日)

10月27日(土)～11月9日(金)
は第72回読書週間です。



00 9:00-20:00

00 10:00-15:00

00 休館

00 定例休館日

10

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

11

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

12

12月28日-1月3日: 休館

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

環on 開室日程表



話せる図書館

「環on(わおん)」(人環棟1F)

開室: 月～金 9:00-17:00

休室: 土・日曜日・祝日

創立記念日(6/18)

冬季休業期間

卒業式の翌日～4/3, 8/11～8/20